

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

今年の夏は全国各地で豪雨が発生するなど、異常気象続きでありましたが、皆様に於かれましてはどの様にお過ごしになられましたでしょうか。

さて、私は昨年11月に「ジェットロ上海事務所」から独立し、現在単独で活動している「上海愛知県産業情報センター」の活動実態調査も兼ねて、8月中旬に2泊3日で中国・上海の経済実態調査に行きまして、今回は調査を終えての感想を述べさせていただきますと思います。

日本国内においては、中国バブル崩壊や対日感情等の中国リスクを懸念する声が多く囁かれ、アセアン地域へのシフトが急速に進められていますが、実際に中国を訪れてみると、未だインフラ整備（道路・港・都市基盤等）が着実に進められており、中国は更に成長していきたくらうと痛感させられると同時に、特に中国国内における自動車販売については、去年は初の二千万台突破し、今後も更に増加が予想されるなど、成長が見込まれる分野である事を改めて理解する事が出来ました。

しかしながら、中国国内の平均賃金は国策により急速に上昇しており、これまでの様な安い労働力を求めての中国進出では成り立たず、更に中国ローカルメーカーも著しく成長している事から、日系メーカーでなければ製造する事が出来ない高付加価値の製品づくりに取り組まなければ、現地での成功は有り得ないと感じました。

只、高付加価値の製品の現地生産は、即ち愛知県内の産業空洞化に直結する事となるため、常に県内において最先端技術の開発・生産が可能となる土壌作りが行政に課せられた課題であると痛感させられましたので、産業振興策の充実など、今後の提言活動に活かしてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 